

第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

1 日 時 令和7年7月30日（水） 午後1時30分から午後4時まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- (1) 委員 16名中14名出席（欠席2名）
- (2) 県 教育長、教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) 会長・副会長の選出（会長：佐古秀一委員、副会長：金西計英委員）
- (2) 本県公立高等学校の現状について
- (3) 公立高等学校に求められる役割について
- (4) 公立高等学校のさらなる特色化・魅力化について
- (5) その他

5 岩本委員（一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事）による 全国の高校魅力化の取組動向などの話題提供

- 生徒を主語に考えれば、生徒が望む、生徒自身にとって適正な学校規模は多様である。
- 存続の危機にあった公立高校において、コーディネーターの配置や地域留学などにより、質の高い教育の実現や全国からの若者に選ばれる魅力ある高校づくり・地域づくりにつながった事例が見られる。
- 高等学校と地域・社会は、会議等で発言するだけの「協議体制」を越えて、目標を共有し、資源も出し合いながら事業・活動も行う「協働体制」を構築・運用していく必要がある。
- 私立高校無償化の影響により、都市部の私学や私立広域通信制高校への生徒の流出が懸念されることから、地域唯一の公立高校や専門高校に対して、その魅力を最大限に引き出すための抜本的な支援策を講じるべきと考える。
- 広報戦略として、地元向けには情報発信のため総花的に見せつつ、大都市圏では学校の特色ある強みを戦略的にアピールすることが重要である。
- 生徒数減少の危機感を共有するだけでなく、生徒、学校、地域にとってメリットとなるビジョンを対話を通じて共に創り出す必要がある。そのビジョンによる取組の成果が生徒の成長や変化として表れることで、地域の一般の方々も巻き込み、行動を促すことができる。

6 意見交換における主な発言概要

- 公立高校の課題は、教育の枠組みだけでなく、経済界など社会全体が危機感を共有し、本気で取り組むべき、より大きな問題として捉える必要がある。
- 生徒一人一人の夢や目標を実現できるよう、学びを支援し、必要な学力や技能を身に付けられる環境を整えるべきと考える。多様な体験活動を通じて、社会に溶け込む力を培ってもらいたい。
- 全国の先進事例が示すように、高校魅力化を推進するには、コーディネーターの配置が不可欠である。本県においても、県教委と地元自治体が連携して、学校と地域をつなぐコーディネーターが配置できる体制の構築を進めていただきたい。
- 学校現場では、働き方改革が進められているが、さらなる特色化・魅力化を進めるための人的・物的な支援が不足している。コーディネーターの配置に係る予算も含め、財政支援策の検討を進めるべきである。
- 県内の公立高校では、すでに自治体や高等教育機関と連携した特色ある取組が実施されている。その特色・魅力を明確に打ち出すため、新しい学科やコースの設置を検討する必要がある。
- 生徒が目的意識を持って高校を選択できるよう、小・中学校からのキャリア教育が重要である。また、各高校の取組が中学生や保護者などに十分に伝わる効果的な情報発信が必要である。
- 地域との連携・協働を進める上で、コミュニティ・スクールを効果的に機能させることが重要である。学校運営協議会を、子どもたちのために何ができるかという当事者意識を持って話し合える場にするべきと考える。
- 徳島市内の普通科高校の教育課程には、新しい取組を行うだけの時間的余裕が少ない感じる。学校の先生、コーディネーター、県や地元自治体といった多様な関係者が、それぞれの学校や地域がどのような学びを目指すのか、現実的に考える必要がある。
- 海部高校に入学してくる地元の生徒は、小学校から中学校まで人間関係がほぼ固定化している。しかし、高校では県外や県内の他地域からの入学者も多数おり、多様な交流の機会が生まれ、それが生徒の成長につながっていると考えられる。